



「ラニチジン」を自主回収 海外での発癌性物質検出で

製薬11社

グラクソ・スミスクライン(GSK)、沢井製薬、東和薬品など製薬企業11社は、抗潰瘍薬「ラニチジン」(先発品名:ザンタック)の自主回収を開始した。

ラニチジンは、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎などを適応症に持つH₂受容体拮抗剤である。国内では、GSKが先発品の「ザンタック」を販売しているほか、複数の製薬企業が後発品のラニチジン販売していた。

ラニチジンと同剤の原薬をめぐっては、海外で発癌性物質である微量のN-ニトロソジメチルアミ

ン(NDMA)が検出され、欧米の規制当局が現在、安全性評価を実施している。国内でも厚生労働省が9月、ラニチジン、または同剤と類似の化学構造を持つ「ニザチジン」(先発品名:アシノン)を販売する製薬企業13社に対し、NDMA混入の有無を分析するよう事務連絡を発出しており、ラニチジンについては、分析結果が判明するまで製品出荷を行わないよう求めていた。

こうした中、GSKは、同剤を製造委託している海外工場から販売を中断するよう欧州医薬品品質部門から通告されたとの情報入手したことから、予防的措置とし

て9月に「クラス2」の自主回収を決め、10月に回収分類をクラス2からクラス1に引き上げ、患者に処方済みの製剤を含む全ロットの回収に踏み切った。

また、後発品を販売する日医工と沢井製薬、鶴原製薬、ニプロも、予防的措置から「クラス1」の自主回収に踏み切り、回収した製剤と原薬について混入があるかどうかを調べ、分析結果が判明後に出荷を再開するとしている。その他の企業も混入の調査を行い、マイラン製薬、陽進堂、小林

化工、東和薬品、日本ジェネリック、武田テバファーマの6社が管理指数を超えたNDMAが検出されたと発表。医療機関からの自主回収に加え、先月16日から患者の手元にある製剤も自主回収している。

ラニチジン販売する11社は、患者に対しては医療機関で代替薬に切り替えるよう呼びかけており、再診費用や通院に伴う交通費を含めた代替薬の費用については、製品を販売している各社が負担するという。

高校の先生から見た薬学部



メディセレスクール社長

児島 恵美子

こんにちは。メディセレのしゃっちゃん、児島恵美子です。このほど全国の高校で進路指導を担当する先生に「進路指導では生徒の何を重視して、どの学部を勧めているのか?」というアンケートを取りました。

264校から回答があり、先日の日本薬学教育学会大会でポスター発表いたしました。要点をざっくりいいますと、▽看護学部は、学業成績が悪くてもコミュニケーション能力の高い子に勧める▽薬学部は、学業成績は良いが、コミュニケーション能力が一番低い子に勧める——という結果になりました。

コミュニケーション能力を重視する学部別順位は、1位「看護学部」

国試予備校の現場から

72.3%、2位「医学部」53.4%、3位「歯学部」39.8%、4位「その他の医療系学部」37.1%、5位「薬学部」28.4%となり、薬学部は最下位でした。

薬剤師の業務が「対物」から「対人」へと移り変わる中、コミュニケーション能力の重要性が叫ばれています。では、どうすればその能力は高まるのでしょうか。

まずは相手に興味を持つこと。人は、自分のことを分かってくれている人に好感を持ち、信頼を寄せます。相手との共通点や違いを見つけましょう。

共感することも重要です。人は様々な状況に陥ります。その状況に共感してくれる人に好感を持ちます。相手の気持ちになって、同じ感情を持ってみましょう。

相手との一体感をつくる技術もあり

ます。スピードや口調などを合わせる“ペーシング”や、ジェスチャーを相手と鏡写しにする“ミラーリング”を試してみてください。

聞き上手になって、相手の話をよく聞きましょう。コミュニケーション能力は話すことだけではなく、うなずきや相槌を入れるだけで印象が変わります。

話が長かったり、結論が分からなかったりする話し方は、相手に伝わらない代表例です。話す順番を変え、結論から先に話しましょう。

これらの理論に加えて、テレビでも構いませんので、説明や相槌が上手い人など、コミュニケーション能力の高い人をよく観察し、真似をしてみてください。コミュニケーション能力を磨き、薬の知識を増やして、人のお役に立てる薬剤師になりましょう!

医薬品 副作用被害 救済制度

ぜひ、おぼえておいてください。



医薬品は正しく使っても、副作用の発生を防げない場合があります。万が一、副作用により入院治療が必要になるほどの重篤な健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付を行う公的な制度があります。

お薬を使う
すべての方に
知ってほしい
制度です。

薬学生のみなさまへ

救済制度
相談窓口

◎救済制度についての詳細は、PMDAにご相談ください。
☎ 0120-149-931
電話番号をよくお確かめのうえ、おかけください。
受付時間：午前9：00～午後5：00/月～金（祝日・年末年始をのぞく）
Eメール：kyufu@pmda.go.jp

詳しくは または で

pmda
独立行政法人
医薬品医療機器総合機構

